

第5次結城市総合計画実施計画策定及び行政評価シート

担当部署	部 局 名	都市建設部		
	課 名	都市計画課		
	係 名	建築係		
	記 入 者		電話(内線)	252

1. 事業の概要

(1) 事業種別 [新規又は継続]	継続		(2) 事務事業 の名称	市営住宅維持改修事業				(3) 事業の 優先度	A	
(4) 総合計画での位置づけ					(6) 事業主体		市			
① 事業の区分	主要事業					(7) 予算・ 財源等 の種別	事業の性質	普通建設事業費(ハード事業)		
② 施策コード	22104	(総合計画掲載ページ)		74	ページ		会計区分	一般会計		
基本目標(政策)	2安全で住みやすさを実感できるまちづくり(都市・環境)						財源区分	国庫補助		
基本施策	2-2ゆとりある住みよいまちづくり(住環境)						予算科目	款 8	項 4	目 1
施策	①良質な住宅地の整備						予算書上の	市営住宅管理経費		
施策内容	4市営住宅の改修						事業名称	(予算書 146 ページに掲載)		
(5) 事業期間	開始	昭和	33	年	4	月から	(8) 事務分類		自治事務	
	終了			年		月まで (		力年)		
					根拠法令		公営住宅法・結城市営住宅の設置及び管理に関する法令			

2. 事業の目的及び内容

(1) 対象 (だれに対して・何に対して行うのか)	(3) めざす姿 (意図・どのような状態になるのか)
市営住宅入居者(希望者を含む)及び市営住宅(敷地・建物) 総数335戸 6団地	老朽化の著しい市営住宅を、市営住宅マスタープラン及び長寿命化計画に基づき、屋根、外壁を行うことにより、建物を常に健全な状態にし、長寿命化を図る。また、退去時に伴い内装や水回りを修繕し、常に市営住宅に入居しやすい状態にし、快適な住環境を維持する。
(2) 手段 (事業内容・どのようなことを行うのか)	(4) 事業開始のきっかけや他市の状況など (※ 1-(8)事務分類が法定受託の場合は記入の必要なし)
●市営上林住宅屋根外壁長寿命化工事 H27年度4棟実施23,976千円、H28年度4棟予定29,630千円 ●中住宅屋根外壁長寿命化工事 H30～31年度まで予定11棟 ●外構整備工事(上林・中・かなくぼ住宅)H28年度2,170千円 ●退去時、内装、水回りの修繕を行い、修繕費8,300千円 ●市営かなくぼ住宅長寿命化工事平成32年予定 ●市営城西アパート長寿命化工事H30から予定	市営住宅の供用開始から維持管理を行っている。住宅の老朽化が著しいため、平成23年度より屋根・外壁などの長寿命化工事を行っている。また内部は、老朽化により損傷が激しいため、退去時に修理を行っている。
(5) 事業をとりまく環境の変化(社会環境、市民ニーズ等)や市民・議会の要望、意見等とそれに対する対応	
入居の需要が高いため、今後も良好な住環境の保全と施設運営が必要である。長寿命化工事により建物の外部ハード面を健全な状態にしているが、内装及び設備は老朽化しており、今後修繕費は増加する傾向である。城西アパートも築20年経過しており、外壁からの雨漏りもあり、修理を必要としている、また高齢者を多く抱えており、今後バリアフリー対策も求められる。	

3. 事業コスト

行政評価		実績内容の評価		検討・改善		検討・改善内容を反映							
実施計画													
● 予算内訳		実績額（千円）		当初予算額（千円）		計画額・見込額（千円）							
事業内容		27 年度		28 年度		29 年度		30 年度		31 年度			
（１）事務事業費の コスト	事業費	需用費		11,794		8,500							
		委託費		746									
		工事請負費		23,976		31,800							
		工事請負費（城西）											
	合計		36,516		40,300								
	財源	国庫支出金（千円）		9,632		10,890							
		県支出金（千円）											
地方債（千円）													
その他特定財源（千円）		11,794		8,500									
一般財源（千円）		15,090		20,910									
合計（千円）		36,516		40,300									
補助・起債制度名		社会資本整備総合 交付金		社会資本整備総合 交付金									

4. 指標の検証（活動指標・成果指標）								
指標の名称			単位	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度	31 年度
(1) 活動指標（実施した事業の内容）								
指標名	管理戸数	目標値	戸		334	334	334	334
		実績(見込)値		335	335			
	長寿命化棟数	目標値	棟		4	4	6	6
		実績(見込)値		4	4			
(2) 成果指標（事業実施によるめざす姿の達成度）								
指標名	安全で快適な住環境の維持	目標値	戸		334	334	334	334
		実績(見込)値		60	80	100	130	167
		達成率		18.0 %	24.0 %			
	長寿命化による住宅維持	目標値	棟		66	66	66	66
		実績(見込)値		14	18	22	28	32
		達成率		21.2 %	27.3 %			
5. 事業評価								
(1) 平成27年度の行政評価結果をうけて、平成27年度に取り組んだ改革改善点があれば記載してください。 H27年度作成した「結城市市営住宅マスタープラン」に基づき、今後市営住宅の維持管理を行っていく。								
(2) 項目別評価								
評価項目・客観的評価				理由				
必要性	事業の必要性	A	必要性は高い	老朽化の住宅を、長寿命化工事により長く施設が利用できるようにするため、必要な手段といえる。				
妥当性	実施主体の妥当性	A	妥当である	市の管理する施設であるため、妥当である。				
	手段の妥当性	A	妥当である	施設を維持管理するうえで必要である。				
効率性	コスト効率 人員効率	A	改善の余地はない	現地を調査し適正に工事を行っている。				
公平性	受益者の偏り	B	どちらとも言えない	工事を行った箇所と行っていない箇所の差がある。				
有効性	成果の向上	B	どちらとも言えない	長寿命化により、外部のハード面は健全となってきたが、内部は退去時にしか、手を加えられないので今後の検討課題でもある。				
進捗度	事業の進捗	B	どちらとも言えない	国庫補助金を活用し行っているが、市の財政状況より、単年に行える実施戸数は少ないため、なかなか進んでいない。				
(3) 総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください。 長寿命化工事により、事業自体は少しずつではあるが進捗しているが、内部の工事は、現在入居者がいるため、退去した時にしか内部を工事を行えない、外部はよくなるが、内部が進まないため、外部と内部の老朽化の隔たりがある。水道などの水回も老朽化しているので、随時それらは修繕で対応を行っている。								
(4) 対応策・提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか？ 安全で安心な住環境を提供するため、今後も長寿命化工事や内部の修繕に取り組むことと、社総交などの交付金を利用し市の財政状況にあった維持管理を行う。								
6. 事業の方向性判断								
評価主体		28年度以降の事業の方向性		評価理由・根拠				
(1) 記入者評価 記入者が評価を行う		拡充 (人・モノ・カネ等の拡充)		注) 記入者は「5. 事業評価」を記載するため、この欄は未記入で結構です。				
(2) 一次評価 担当課長が評価を行う		拡充 (人・モノ・カネ等の拡充)		安全で安心な住環境を提供するために、逐次修繕を行い、新たに作成した「結城市市営住宅マスタープラン」に基づき長寿命化工事を対応する。				
(3) 最終評価 企画調整会議において評価を行う				上記評価のとおり。				